酪農学園大学
地域環境学科
同　窓　会

会報

第12号
2013年
3月

地域環境学科第12期卒業生の皆さんへ

地域環境学科長　遠　井　朗　子

地域環境学科第１２期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。昨年12月にお引き受けしたばかりの立場で、いささか僭越ではございますが、地域環境学科の先生方を代表して心からお祝いの言葉を述べたいと思います。

2011年3月の東日本大震災から2年の月日が過ぎました。この間の社会の緩やかな変化と揺り戻しとを見る中で、私たちは震災からの復興やエネルギー政策の民主化といった諸課題への取組みは、一気呵成に進められるものではなく、相互に矛盾する多様なニーズの間のバランスを図りながら、粘り強く進めなければならないことに気づき始めました。

他方では、様々なリスクへの対処を先送りにしつつ、富を一極集中して高度消費社会を実現し、人々の目を幻惑させ続けるような成長戦略はもはや非現実的であることにも気づかされました。これからのまちづくりや地域社会の構想においては、危機や災害に負けない『しなやかな社会の創造』が必要であるという指摘が注目を集めているのは、このような社会意識の変化を反映するものであると思われます。ここで「しなやかさ」とは、従来型の権限集中による効率的な組織運営とは対極に位置付けられる考え方で、各部門の連携により、状況に応じた柔軟な対応が可能となる社会のあり方を指し示す概念です。

このような自律分散型の社会で必要とされるリーダーシップとはどのようなものでしょうか。私はこの分野の専門家ではありませんが、おそらくは、お互いの「違い」を認め合いながら、異なる立場の人たちと柔軟にコミュニケーションを図り、緩やかな協力関係を築き上げることができる力は不可欠の資質であるように思います。

今年1月の卒論報告会は初めて一つの会場で行われました。改めて気づかされたのは、地域環境学科の各研究室の教育指導方針や関心分野の多様性です。このような場では、「当然、こうすべきだ」という主張がストレートに認められることはなく、なぜそれが重要な問題か、という点について、一つ一つ丁寧な説明が求められます。横やりを入れられて、憤然としたり、心外に思ったりした方もいたかもしれませんが、これこそが、これからの社会創造の場の予行演習のようなものでした。

これからは、異なる分野の人たちが連携し、今まで無関係と思われていた部門を結び合わせることで、新たな価値を生む時代です。それが社会全体の「しなやかさ」にもつながります。卒業生の皆さんには、地域環境学科で培われた「柔らかな知性」を存分に働かせて、このような時代を切り拓いていって頂きたいと思います。皆さんが社会の第一線で活躍される頃には、「地域環境学科は何をやっているところかわからない」という外からの評価は、きっと最大の賛辞となっていることでしょう。

最後になりましたが、学生時代と同様、社会に出てから後も、楽しいことも、失敗も、様々な経験を多くの人たちと分かち合い、後ろを振り返ったり、ふらふらよそ見をしたりしながら、前へ進んでいって下さい。そんな皆さんが様々な分野で活躍されて、時折、ふらっと近況報告に立ち寄ってくれることを、私たちは楽しみにしております。そして、くれぐれも健康には気をつけて、いつまでもお元気でお過ごし下さい。

おめでとう12期生

同窓会会長　伊早坂　晶　宏

第12期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが地域環境学科同窓会に入会されることを同窓会一同　心より歓迎いたしております。

学園でのキャンパスライフは、いかがでしたか?大学生活では、本当に沢山の人と出会ったことでしょう。温かい先生、ゼミの仲間、部活やサークルの先輩と後輩、学生ボランティアの人たち。日々の生活の中で、お互いに成長し、理解し合い、信頼が生まれ、絆ができたことでしょう。

皆さんが社会に出て、嬉しい時、悩んだり苦しんだりしている時にも、きっと温かく迎えてくれる人たちであると思います。私はそう感じています。これから、新しい環境に進んでいく皆さん。そこには、また新しい出会いがあることでしょう。どこへ行っても、酪農学園の卒業生として、胸を張って、力強く生きて下さい。そして、個性ある地域環境学科の学友としても、強い連携と親睦を深めていきましょう。皆さんからの同窓会へのご協力とご指導も、どうぞよろしくお願いいたします。最後といたしまして、皆様のこれからのご多幸とご活躍、ならびに地域環境学科の充実と発展を心よりお祈り申し上げます。

卒業　おめでとう!

地域環境学科 ゼミ紹介

キリスト教学研究室（環境平和学研究室）

藤　井　　創　先生

私たちの研究室（通称：ハジゼミ）では、平和学という分野から、社会環境・自然環境をどのように作り上げていくべきか、その方法を研究しています。

ハジゼミといえば、海外研修が定番となっています。３年連続フィリピンに行き、スラム街や日比新生児の支援団体などを訪問しました。研修では、学生一人一人が、アジアから日本を見つめ、多角的に物事を考えることのできる、成長の場となっています。

また、原発問題にも関心が強く、江別市民の方々と原発について考える会など、沢山の活動が展開しています。様々な刺激を受け、良い経験ができた二年間でした。本当にありがとうございました。

OA システム研究室（フィールド情報学研究室）

森　　夏　節　先生

私たちのフィールド情報学研究室では、IT化によってもたらされる環境負荷や情報格差（デジタルディバイト）などを社会環境の観点から研究しています。また、年２回程行われる情報処理検定などの資格取得を始め、ゼミ研修では海外に赴き調査を行なっています。

今年度の４年生５人は、ゼミ研修で韓国と台湾を訪れ他の国のIT化の発展がどの様なものかを直接見ることで俯瞰的な考え方が出来て、私たちは成長したと思います。ご指導下さった森先生には感謝しています。２年間ありがとうございました。

地方自治研究室

河　合　博　司　先生

私たち地方自治研究室は、「地域・自治体の環境政策の理論と実際」を共通テーマに、道内、全国各地に足を運びまちづくりについて学んでいます。2012年度は、道内の東川町、美幌町、訓子府町などに行き、現地に行かなければ体験できないような成果をたくさん得てきました。

今年は、河合先生の最後のゼミ生として人数が少ないながらも、支え合いながら作業してきました。体調が悪い中ご指導してくださった河合先生2年間、本当にありがとうございました。

環境文化論研究室

岩　井　　洋　先生

環境文化論研究室は、「人間と自然とがどのようにかかわってゆくべきか？」について、宗教、文化、芸術、言語など、多様な視点から考える人文・社会科学系のゼミです。幅広い蔵書は、他のゼミ生からも親しまれ利用されています。ゼミ旅行では、旭山動物園の「ウラ」を見学したり、旭岳や白神山地でのちょっとした登山、有島武郎や宮沢賢治といった豊かな自然を描いた文学者の足跡を辿るなど、現場での学びや感覚を大切にしながら研究を進めています。基礎ゼミでは、各々の関心に合わせたレポートの作成・発表、それに対する質疑応答や、やや難しい文献の読解・要約と、基本的な能力を高めることもできます。

都市空間情報研究室（環境空間情報学研究室）

小　川　健　太　先生

私たち都市空間情報学研究室は、GIS（地理情報システム）・RS（リモートセンシング）技術などを用いた空間情報の解析、活用技術の開発と評価に取り組んでいます。地球観測衛星から送られてくる画像、高性能カメラを搭載し上空100mを飛行できる超小型飛行ロボットによる航空写真からさまざまな画像処理により情報を抽出して、農地・自然環境の広域のモニタリング、野生動物の生態の解析から、防災、災害対策等における状況認識、情報共有手法の開発などを行っており、研究分野は多岐にわたります。

地域国際関係論研究室

森　川　　純　先生

私たちのゼミは森川先生のもとで１人１人がそれぞれの興味のある分野について学ぶことができます。4年生の6人卒業論文は中東戦争、民族問題、北海道のエネルギーの民主化、漆塗り、ウイスキー、ワインとテーマは多種多様です。しかし、森川先生は私たちのことをしっかりとサポートしてくれます。私たちのゼミの強みは、全員が違う分野に関心を持ち、研究し、意見交換し合うことで様々な分野について学べ、いろんな物事について広い視野と知識を得られるところです。こんなことができるのも森川先生に支えがあるからこそです。

資源再利用学研究室

押　谷　　一　先生

私たちは一般的にごみとして捨てられるものに着目し、ごみの再資源化を目指す研究をしています。ごみと一言で言っても、生ごみや不燃ごみ、ビンや缶など様々な分野に分かれています。それ以外にも、風力発電や水力発電といった自然エネルギーにも着手しています。実際の施設に訪れ、現場で生の声を聞く機会が多く、幅広い分野を研究できるところが資源再利用学研究室の魅力です。

地域環境保全学研究室

宮　本　雅　美　先生

地域環境保全学研究室では、「地域の特徴ある自然の保全」を目標に、野生生物の生態や保全手法、自然の賢明な利用についての研究を宮木先生のご指導のもと、フィールドに飛び出し、自然の豊かな感性と科学的な知識を養い、調査を行ってきました。宮木先生にはチームワークに欠ける4年生を、最後までご指導して頂きありがとうございました。

身体環境学研究室

牧　原　　統　先生

身体環境学研究室では、シーカヤック・ダイビング等の身体活動を通して、自然環境と身体環境の正しい知識と理解を深めています。ただ研究室にこもるだけでなく、大自然の中で普段味わえない貴重な体験をすることができました。地域環境学科で一番危険なゼミ生達を、恐怖でまとめて下さった首領・牧原、2年間ありがとうございました。

※2011年度の大学改組による学群・学類制の移行に伴い、2011年度入学者より研究室名が一部変更されております。
ご参考までに新名称は括弧書きで表記いたします。

同窓会役員

酪農学園大学地域環境学科同窓会役員

会　　長　伊早坂晶宏　　副 会 長　佐藤　恒平
幹 事 長　中嶋智恵子
幹　　事　塩谷　未央・久保　昭範
会計幹事　石黒めぐみ・西山　健肇
会計監査　辻　こころ
広 報 部　原田　唯史・小林とよみ
第一期生理事　伊早坂晶宏
第二期生理事　吉田　陽平
第三期生理事　北川　　元
第四期生理事　齊藤　彩香
第五期生理事　平田　和之
第六期生理事　安部　　至
第七期生理事　笠原　幸治
第八期生理事　福原　美怜
第九期生理事　高原　一将
第十期生理事　杉山　　岳
第十一期生理事　宮本　香連
第十二期生理事　久保　善紀

酪農学園大学同窓会校友会役員

理　　事　佐藤　恒平・吉田　陽平・立川　直生・齊藤　彩香
代 議 員　大谷　洋貴・久保　昭範・廣瀬　寿樹・松永　明子・大貫　　光・戸川　翔太・菅野　良美・戸田　新太郎・小松　史典

酪農学園大学同窓会連合会役員

理　　事　佐藤　恒平

～各　支　部～

第一支部　北海道　同窓会事務局
第二支部代表　半谷　聡子・齋藤　文人
東北（青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島）
第三支部代表　中村　洋一・富田　裕司
関東（群馬・栃木・茨城・埼玉・東京・千葉・神奈川）
第四支部代表　古川　　恵・渡辺　桃子
中部（福井・石川・富山・新潟・岐阜・長野・山梨・愛知・静岡）
第五支部代表　澤井　　徹・一瀬　貴大
近畿（滋賀・大阪・京都・兵庫・奈良・三重・和歌山）
第六支部代表　福原亜沙子・井上　麻衣
中国、四国、九州、沖縄
（山口・島根・鳥取・広島・岡山・愛媛・香川・高知・徳島・福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎・熊本・鹿児島・沖縄）

会　計　報　告

項　　目		2011年度決算	2012年度予算
収　　入	大学同窓会費収入	990,000	540,000
	前期繰越金	3,460,783	3,446,303
	祝賀会学生徴収分	165,000	108,000
	決算利息	602	0
	計	4,616,385	4,094,303
支　　出	大学校友会分担金	198,000	162,000
	卒業記念品	281,948	144,000
	同窓会会報費	47,250	47,250
	卒業祝賀・謝恩会費	639,944	368,000
	雑費	2,940	10,000
	寄附	0	0
		1,170,082	731,250
差引・次期繰越金		3,446,303	3,363,053

編集・発行／酪農学園大学地域環境学科同窓会　会報編集委員会
〒069-8501　江別市文京台緑町582番地　酪農学園大学同窓会校友会内
TEL 011-386-1196　FAX 011-386-5987